東京部会(No.136)大阪部会(No.86)合同部会	
日　時:	2023 年　9 月　30 日（土）15:00 － 17:10
場　所:	慶応義塾大学三田キャンパス東館オープンラボ＋Zoom による web 会議
参加者：	参加20名（会場7名、zoom13名）

【内容要旨】

１　最初に坂倉有香氏（東京証券取引所）より、「先生のための夏休み経済教室」の総括があった。申込者・参加者の数や属性、アンケートを集計・整理して得られた評価、感想、要望などが報告された。参加者からの評価はおおむね高く、現場教師と専門家の組み合わせという形や、ハイブリッド開催を継続してほしいとの希望があった。また、専門家として、大学教授だけでなく最先端にいる実務家や新聞記者なども候補に考えてはどうかとの提案があった。

２　塙枝里子氏（東京都立農業高等学校）からは「シンガポールの金融経済教育」が報告された。これは、日本証券業協会の「金融経済教育を推進する研究会」に設けられた海外調査部会（部会長は栗原久東洋大学教授）の報告書『海外における金融経済教育の実態調査報告書』の一部である。

シンガポールは、PISA（OECD生徒の学習到達度調査）のきわめて高いランキングにみるように、教育に力を入れている国である。金融経済教育に関しては、2003年に人材開発省（MOM）を中心に国家経済教育プログラム「Money Sense」の提供が始まり、家計の長期的な資産管理・運用が国家戦略に位置づけられている。

しかしながら、学校教育においては、日本の家庭科に当たる「食と消費者教育」や、数学などの関連科目に位置付けられ、金融経済教育の優先順位は高くない。そのため、「Money Sense」によって金融リテラシーの向上は多少みられるものの、退職後の貯蓄不足や金融詐欺被害などの問題があり、シンガポールの金融経済教育が大きな成果をあげているとは言いがたいことが、現地ヒアリングや制度調査から明らかになった。

それでも日本が見習うべき点として、塙氏からは、年金制度（公的・私的）も含めた金融経済教育を充実させること、中立・公正な金融経済教育の担い手（機関）およびプログラムを明確にすること、公民科と家庭科のみならず数学、情報などとも連携した科目横断的な金融経済教育を推進することがあげられた。

＊報告書本文は、日本証券業協会のホームページを参照されたい。

https://www.jsda.or.jp/edu/research_society/kinyukeizai.html

３　中西覚氏（埼玉県鳩山町立鳩山中学校）からは、「OneNoteを活用した授業の実際」が紹介された。経済教育ネットワークメールマガジン176号（2023年9月1日）に掲載された記事「グループ学習をＩＣＴで組織するためのハウツー」の具体的な内容報告である。

使用されるアプリはMicrosoft OfficeのOneNoteである。OneNoteには、メモや資料などの情報を共有することの容易さ、テキストだけでなく画像や動画も統合可能、整理や検索の容易さなどの利点がある。たとえば地理学習において、「オーストラリアに羊がたくさんいるのはなぜか」という問いにグループ学習で考えさせようとしたとき、紙ベースであればジグソー学習が有効と考えられる。グループメンバ

ーが様々な側面に分かれて専門学習をし、各人が調べたものを持ち寄って報告し、他のメンバーは書き写して情報を共有するという進め方である。

ところがOneNoteであれば、グループメンバーがタブレットやＰＣに写された同じノートに書き込むことができ、情報を共有したらすぐに議論に入ることができる。根拠となる図表や資料を加えることも容易である。

この部会においては、参加者全員がOneNoteの画面を開き、この後の杉浦氏からの問題提起を受け、意見交換をする場としてOneNoteを試してみることになった。

４　杉浦光紀氏（東京都立井草高等学校）から「ChatGPTの教育への活用是非」という報告があった。こちらも、メルマガ176号で配信された記事であるが、元になる論考は経済教育ネットワークの「授業のヒント」（2023年8月）に掲載されている。　https://econ-edu.net/2023/08/31/4514/

そこでは、ChatGPTに対する否定的意見と肯定的意見がまとめられ、授業での使用例がいくつかのパターンに分けて紹介されている。さらに、生徒を評価するにあたってどのような影響や課題があるのかについても言及されている。実は、メルマガの記事の大部分は、元の論考の文章をChatGPTに要約させたものだと種明かしもされ、ＣｈａｔＧＰＴにどれほどのことができるかを示す一例として使われた。

５　４の杉浦氏の問題提起を受けて、３の中西氏のOneNoteには、右に行けばChatGPTに肯定的、左に行けば否定的になるような両側矢印線が描かれた。参加者はそこに自分の態度や考えを書き込み、どのような意見の持ち主がいるのかを一目でみることができるような画面になった。意見交換の時間はほとんどとれなかったが、授業で活用する感覚をつかめたように思う。その後ChatGPTの活用法について議論し、よりよい質問にたどり着くために教師が事前に何度も問いを繰り返すなどの意見が出された。

（文責：野間敏克）

テスト問題（新テストなど）	✔中学　小学	✔高校	指導案	新聞教材（ＮＩＥ）

次回開催予定：

東京部会（No.137）2023年11月18日（土）15:00～17:00、慶応大学三田キャンパス＋Zoom

大阪部会（No. 87）2023年12月9日（土）15:00～17:00、同志社大学大阪サテライト＋Zoom